

新潟県女性センター情報 No.94

2013.7.25 発行

働く女性のためのセミナー

女性財団では、今年度も働く女性がスキルアップ・ステップアップで
きるセミナーを開催します。

7月13日には「働く女性のためのコーチングマネジメント」基礎編
を開催しました。様々な職種・年代の女性 19 人が参加しました。講師の丸山結香さんは経営コンサル
タントの立場から、またご自分の失敗談なども交えながら、実践的なコーチングを指導してくださり、
毎回とても好評です。今年度は2月に、さらなるステップアップを目指して「実践編」を開催します。

【今後の予定】

仕事に活かす話し方セミナー

9月29日(日) 13時30分~17時 講師：菊野麻子 参加費：3,000円

ロジカルコミュニケーション

11月10日(日) 13時~17時30分 講師：照屋華子 参加費：3,000円

コーチングマネジメント「実践編」

2月23日(日) 10時~17時 講師：丸山結香 参加費：5,000円

【対象】いずれも、働く女性 【会場】新潟ユニソンプラザ2階 女性団体交流室2



地域セミナー

市町村と女性財団が協働で企画・実施する地域セミナーは、今年度県
内7か所で開催予定。9月~10月には、下記のセミナーが行われます。

★燕市「自分流ワーク・ライフ・バランス (WLB) のすすめ」 *時間：各回 18:30~20:30

回	日時	内容	講師
1	9/10(火)	WLBとは ~自分のWLBをチェックしよう~	田中亮祐 (株式会社 WLB)
2	9/17(火)	自分流 WLB ~自分の望むWLBを考えよう~	
3	9/24(火)	自分流 WLBの第一歩 ~職場で生かせるコミュニケーションを学ぼう~	宮川一三 (産業カウンセラー)

【会場】燕市役所 会議室 101 【問合せ先】燕市地域振興課地域振興係 TEL: 0256-77-8361 (直通)

★胎内市「子育て支援セミナー」 *時間：10:00~12:00 3回目のみ、9:00~12:00

回	日時	内容	講師
1	9/11(水)	「子育て支援ってどんなこと~乳幼児の特性と親の気持ち~」	角張慶子 (新潟県立大学 講師)
2	9/20(金)	「子どもの心の発達と絵本」	乙川ヤイ (新潟県立大学 非常勤講師)
		「ふれあいあそび」	保育士
3	9/27(金)	「救急法・応急手当てを学ぼう」	日本赤十字社新潟支部
4	10/7(月)	「子育て支援、私にできること」	角張慶子 (新潟県立大学 講師)

【会場】ほっとHOT 中条 【問合せ先】胎内市健康福祉課こども係 TEL: 0254-43-2584

にいがた^{ひと}女と^{ひと}男フェスティバル

去る6月22日(土)・23日(日)、新潟ユニゾン
プラザを会場に「にいがた^{ひと}女と^{ひと}男フェスティバル
2013」を開催しました。22日・23日午前は、県内

で活動する11団体によるワークショップが行われました。また、23日午後の女性財団主催の講演会には、県内各地から150人を超える方々に参加していただきました。以下、講演の内容を掲載します。

講演会「新島八重の生涯に見る近代日本」

講師：佐伯順子さん(同志社大学大学院教授)

私は、長年、明治の女性史について研究して参りました。この度、思いがけず同志社大学ゆかりの新島八重が、大河ドラマの主人公となり、不思議なご縁を感じています。

明治時代は江戸時代から明治新政府になった歴史の大きな激動の時代でした。その中で、女性の視点から語られた明治史というのは多くありません。今回のドラマでは、明治の歴史を女性の視点から、かつ、勝ち組の薩長ではなく敗北した会津の視点から伝えようという試みをしています。

■明治時代と男女平等の動き

明治時代は、士農工商という身分制度から四民平等に移り、男女平等という考え方が生まれた画期的な時代です。

明治政府は学制を明治5年に発布し、男女は平等に教育を受けるべきであるということを打ち出しました。ドラマの中でも、会津の日新館で学びたいと思っていた八重は、女子であることで学ぶことができず、もどかしい思いをしていました。それではいけないということで明治政府は教育の男女平等を打ち出しました。

2つ目は「人権」意識の台頭です。明治5年に娼妓解放令が出されています。女性が身体を売ることは、人権を侵害されているのだという考え方を明治政府は打ち出しました。何故、明治5年に娼妓解放令が出されたかということ、マリア・ルーズ号という外国船から清国のクーリー(奴隷)が逃げたのを日本政府が保護しました。マリア・ルーズ号側は自分の船から逃げ出した奴隷を日本政府が保護したのがあまりおもしろくない。「あなたの国には、娼妓という人権を侵害されている人たちがいるではないか、それにも関わらずうちから逃げ出したクーリーを保護するのはどうか」というクレームをつけました。政府としては、日本は外国に対しても人権を守っている近代国家だということを明示するために娼妓解放令を出しました。

もう一つは、女性啓蒙の機運の高まりで、女性雑誌が明治時代に沢山発行されます。今の女性雑誌の楽しいイメージと違い、代表的なものである『女學雑誌』に「婦人の地位」ということが書かれており、日本が近代化するためには女性の地位をあげなくてはならないと真剣に議論している記事があります。また、配布資料にある薙刀をもっている女性は、大河ドラマで活躍している会津の中野竹子。男性と平等に一生懸命戦った姿勢がすばらしいと、力強くたくましく生きる女性像が模範として女性雑誌に紹介されています。

■女性の社会的主張の弾圧と家父長の権限の増大

ところがこの先、明治時代は女性にとって開放的で生きやすい時代かということ、そうではありません。実は女性にとって差別的な状況が増えていったという事実がありました。

明治17年に制定された町村会法では、選挙権は男子のみ。集会及政社法は、女性の政治活動を禁止。新聞紙条例では、女性が新聞や雑誌の編集発行人になることを禁止しました。そして、明治民法は家庭、プライベートの中の権利や自由を制限するものでした。明治政府は基本男性中心の政治制度を作り上げて女性を公的なことから排除するという動きがありました。



■ “男装”する女性たち

幕末から明治にかけて新しい時代が始まったので、八重も期待したと思うのですが、生きづらい時代だったと思います。

八重は、戊辰戦争で亡くなった弟の形見の着物で男装して戦いました。これが彼女の注目される行為のひとつです。ほかにも男装して社会に出ようとしたり、勉強しようとした女性たちが存在しました。なぜ男子の格好をしなければいけなかったのでしょうか。

明治10年代くらいの女性雑誌では、竹子さんのようなたくましい女性は褒められているのですが、後半になるにつれてだんだん

抑圧されて、女性はおとなしく家庭的になりなさいという時代になります。男性と同じように社会貢献したいと思った女性たちは、男の格好をしなければならなかったのです。樋口一葉さんは日記の中に、「私も男の子として生まれたらもっと自由に生きられたのに（おのこならましかば）」というつぶやきを書いています。



■キリスト教の影響

八重の夫の襄は、国禁を犯してアメリカに渡るという大変大胆な男性でした。アメリカの東海岸のアーモスト大学でハーディ夫妻に世話になりながら勉強しました。そこでライフスタイルを含めて西洋文化を吸収し、男女平等な考え方を身に付けました。

明治の結婚を考える上で、キリスト教は大変重要な要素です。キリスト教に影響を受けた人たちは、実質的に男女平等の考え方を公的にもプライベートでも実現してきました。八重と襄、石阪美那子と北村透谷は恋愛結婚です。明治時代、16歳位が適齢期で、親や親戚が決めた人と結婚するのが一般的でした。恋愛結婚は本人同士の意思による結婚で、歴史的な意義もありました。

■日本女性の労働力の変化

現代の女性の労働力率の変化を示すグラフでM字型を描いているのは日本と韓国ぐらいです。なぜこういうカーブが生まれるのか？結婚・出産を機に仕事を辞める、戦後の日本の女性の働き方の特徴の源が、明治の後半から流れ続けて今にまで尾を引いているということがいえます。明治時代の女性は過渡期で、明治の新聞記事の中には、子どもがいて共稼ぎであることが自然で、働く母親を肯定する視点もみられます。

■今なぜ新島八重か？

なぜ八重をあらためて大河ドラマに取り上げる意味があるのか？

八重が生きた時代が不自由だったことを訴えることによって、女性も男性も生きやすい時代を作った方がいいということを行うためです。ドラマでは八重より兄の山本覚馬が活躍しています。脚本家の山本むつみさんにもっと八重の登場シーンを増やすようにという記事も目にしたことがありました。でも、無理を出すよりは、同じ家に生まれても、こんなに人生が違ってやりたいこともできないということを見て頂きたいと思います

■「良妻賢母」とは

良妻賢母というのは、単に家庭にいるという意味ではなく、多様な社会貢献も含むと再定義する必要があります。仕事をしていても、賢い母、よい妻にもなれます。逆に良夫賢父とも言ってほしいわけです。ドラマを見ていて面白いのは、現在の八重の夫である、川崎尚之助というのは、賢父という部分は無いにしても、八重の鉄砲に関する興味にも理解を示す夫。良夫賢父像を提示しようとしている意識があります。

八重は強くたくましい女性でしたが、自分で自由に体を動かすことができなくなった兄を介護した大変心優しい女性で、介護の先駆者としても注目すべきで、家族の介護をしながら、自分の社会貢献をやりようとした一般市民的な女性でした。今日、私が話した八重や明治女性の生き方が、今を生きる私たちに何らかの形で参考になればうれしいと思います。

県外の情報

●「男女共同参画推進フォーラム」

国立女性教育会館では、「女性の活躍で日本を元気に」をテーマに、フォーラムを開催します。詳細は、下記にお問合せください。

【開催日】8月22日（木）～8月24日（土） 【会場】国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町）

【内容】

8/22	13:15～14:45	基調講演会「女性の活躍推進と社会の活性化」 講師：佐々木 常夫（株式会社東レ経営研究所 特別顧問）
	15:30～17:30	・全国から募集したワークショップ ・会館提供ワークショップ
8/23	10:00～12:00 15:30～17:30	・全国から募集したワークショップ ・会館提供ワークショップ
	13:00～15:00	パネルディスカッション「女性の活躍推進と社会の活性化」 パネリスト：佐藤良子（立川市大山自治会 会長） 藻谷浩介（株式会社日本総合研究所調査部主席研究員） 森川典子（ボッシュ株式会社取締役副社長） コーディネーター：野村浩子（日経 BP 社日経マネー編集部副編集長）
8/24	10:00～12:00	・全国から募集したワークショップ ・会館提供ワークショップ
	13:00～15:00	「女性リーダーらんざん会議」 パネリスト：天野正子（東京家政学院大学学長） 生越多恵子（株式会社ハウスオブローゼ取締役専務執行役員） 中川智子（宝塚市市長） 日置真世（NPO法人地域生活支援ネットワークサロン理事事務局顧問） コーディネーター：内海房子（国立女性教育会館理事長）

【問合せ先】独立行政法人国立女性教育会館事業課 TEL：0493-62-6724・6725

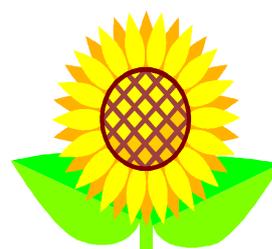
E-mail：progdiv@nwec.jp ホームページ <http://www.nwec.jp>

●日本女性会議〈男女共同参画〉2013 あなん 「いきいき わくわく 小さなまちから新たなるステージ！」

日本女性会議は、「女性の地位向上」を目的に話しあう全国的な規模の会議です。

今年は、10月11日（金）・12日（土）に徳島県阿南市で行われます。参加申込み等詳細については、日本女性会議〈男女共同参画〉2013 あなんホームページ

（<http://www.jwc2013anan.com>）をご覧ください。



【会場】阿南市スポーツ総合センター（徳島県阿南市七見町下川田 100-1）

【問合せ先】日本女性会議〈男女共同参画〉2013 あなん実行委員会事務局

TEL：0884-24-3750 FAX：0884-24-3751 E-mail：info@jwc2013anan.com

編集・発行／公益財団法人 新潟県女性財団

〒950-0994 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ2階／新潟県女性センター

TEL：025-285-6610 FAX：025-285-6630

E-mail：npwf@npwf.jp ホームページ：<http://www.npwf.jp>